

私が子供の頃は、家庭も、学校も、鉄道も、今のように冷房が普及しておらず、地元の電車では、たまに冷房車が来ると嬉しかったことを覚えています。それでは涼しい秋が来るのが待ち遠しかったかという、秋とは夏休みの終わりを意味しますので、宿題の山に汗をかきながら、秋なんていつまでも来なければ良いのに、などと思っていたものでした。

あれから30年。今はどこへ行っても冷房が完備し、当時よりは快適に夏を過ごしているはずなのですが、早く夏が過ぎて秋になってほしいと思うってしまうのは、酷暑のせいなのか、あるいは単に気が短くなっただけなのか、不思議なものです。

さて、鉄道会社は、冷房の導入以外にも列車の増発やスピー

ドアップなど、さまざまな面で鉄道の快適性や利便性を向上してきました。その一方で、鉄道電化の推進や車両の軽量化、回生ブレーキの活用などエネルギー消費を抑えることにも積極的に取り組んできました。夏が来れば思い出すまでもなく、東日本大震災以降の電力需給状況を背景に、鉄道に対してもさらなる省エネルギーが求められています。そこで、今号は「鉄道の省エネルギー」を特集し、多くの切り口から最近の研究成果を紹介しました。

次号の特集は「トンネル」です。構造物としてのトンネルのみでなく、多方面からのトンネルに関わる最近の研究成果を紹介しします。どうぞご期待ください。(K.N.)

## ■2015年7月号の訂正とお詫び

RRR誌2015年7月号に誤植がございました。ここに訂正してお詫び申し上げます。

頁	記事	箇所	誤	正
2	巻頭言	4行目	RESARCH 2010	RESEARCH 2010
8	知能列車による安全性・信頼性向上	執筆者所属	研究開発推進室	研究開発推進部